

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
図書館員のキャリア研究フォーラム (代表者名: 青木玲子<共同代表>)	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
アメリカ州立総合研究大学の女性ライブラリーと専門性 Conversation meeting with Women's Studies Librarian from Rutgers University, U.S.A	
3. 助成額	
150,000 円	
4. 実施期間	
2017 年 7 月 ~ 2017 年 11 月	
5. 実施状況	
7 月 26 日	定例ミーティング:IFLA での DENDA さんとの打合せ内容を確認した。
8 月 21 日-23 日	IFLA2017 会場(ポーランド・ヴロツワフ)にて、DENDA さんと来日スケジュールおよび講演内容について打合せをした。
9 月 6 日	定例ミーティング:IFLA 打合せ報告および広報スケジュールを確認した。
10 月 13 日	定例ミーティング:図書館総合展のポスターセッションに出すポスターの確認および、DENDA さん来日スケジュールの最終確認を行った。
11 月 5 日	DENDA さん来日、歓迎ミーティング。
11 月 6 日	国立女性教育会館(NWEC)で開催された SALA Open Library Weeks2017 「NWEC40 周年 図書館の連携-男女共同参画に関する情報を中心に-」にて、DENDA さんが講演。参加者は、約 20 名。講演後、NWEC 情報課職員と意見交換を行った。
11 月 7 日-9 日	図書館総合展のポスターセッションに図書館員のキャリア研究フォーラムとして出展。DENDA さんとフォーラムスタッフは、ポスター観覧者へテーマについて説明し、率直な意見交換を行った。
11 月 8 日	図書館総合展のスピーカーズコーナーにて、DENDA さんが「アメリカ総合研究大学図書館のめざすもの-possibility から action へ」をテーマに講演。参加者は約 60 名。
11 月 9 日	フェリス女学院大学資料館を見学。ラトガース大学とゆかりのある同大学の学院長、学長と面談。
11 月 10 日	日本女性学習財団にて、11 日講演会の最終打合せ。その後、東京ウィメンズプラザ図書館資料室を見学。図書資料室職員と懇談。
11 月 11 日	東京大学工学部工2号館図書室にて、講演会「ライブラリアンと専門性 -ラトガース

大学の女性学研究支援」開催。講師は DENDA さん、コメンテーターに村松泰子さん（日本女性学習財団理事長）。参加者は約 40 名。

6. 事業成果と自己評価

本事業の成果として、以下の 4 点を上げたい。

①図書館界全体にジェンダーを主題とする図書館員の専門性を知ってもらえる機会となった

今回の招聘は、図書館関係者の最大のイベント「図書館総合展」<https://www.libraryfair.jp/news/6696>

に合わせて実施したことにより、スピーカーズコーナーおよびポスターセッション

https://www.libraryfair.jp/sites/default/files/poster-archive/09_2017.pdf には、

全国各地から様々な館種の図書館員、図書館関係企業人等が参加した。また、国立女性教育会館でも埼玉県内の大学・短大図書館ネットワークSALAに呼びかけ、SALA Open Library Weeks 2017 の一環として、DENDA さんの講演会と NVEC 情報センター見学会を開催することができた。講演会には、SALA 加盟館の図書館員と NVEC 職員が参加し、講演会終了後、NVEC 情報課職員との意見交換も行われた。

②国内女性関連施設、大学とのネットワーク形成に役立った

DENDA さんと共に NVEC、東京ウィメンズプラザ、フェリス女学院大学を訪問し、各施設職員と対話をしたことは、本フォーラムにとって今後のネットワーク形成に役立つものとなった。また、11 日の講演会開催にあたっては、東京大学大学院工学系研究科男女共同参画委員会の協力も得られたことから、本フォーラムの活動を知ってもらえるきっかけとなった。これからの事業展開の強みとなろう。

③DENDAさんの講演会、対話から学んだ新しいライブラリアンシップ

DENDA さんは、250 年の歴史を経たラトガース大学における女性学支援ライブラリーのテニュア（終身雇用）ライブラリアンとして、新しいライブラリアンシップの 4 つのビジョンを示した。

1. Building centric⇒Librarianship(ライブラリアンの専門性)
2. Collection Development⇒Connection Development(ライブラリーの連携)
3. Inward Looking⇒Outward Looking(広い視野)
4. Working alone ⇒ Collaboration and partnership(協力と協働)

④講演会参加者にとってのエンパワーメントの機会となった

11日の講演会には、図書館員、女性関連施設職員、女性団体メンバー以外に、大学教員、研究者の参加もあった。DENDAさんは、日本語での対応が可能なので、活発な意見交換が行われ、講演会終了後に用意した別室は、DENDAさんと話をしたい多くの方々との個別の対話と意見交換の場となった。アンケートでは、ほぼ全員が「満足した」と回答し、「米国ライブラリアンのキャリア形成について具体的な話がきけてよかった」、「専門性の高さが印象に残った」、「ラトガース大学図書館の状況がイキイキと伝わってきた」、「自分自身の仕事に対する考え方が変わった」、「司書として多くの課題があったことを再確認した」などの声が寄せられた。

今後は、今回のDENDAさん招聘報告をまとめ、図書館関連誌などで公表し、図書館員の専門性とキャリア形成について考える場を提供していきたい。